Contents

2021.03
IWATE GRAPH
岩手県広報誌 第775号

[特集①]
東日本大震災津波から10年
震災から10年。感謝を胸に、未来へ。 p01

[未来へつなげ！復興のバトンー特別編ー]
①NPO法人三陸ボランティアダイバーズ 佐藤 寛志さん
②藤勇醸造株式会社 小山 明日奈さん
③三陸王国宮古イカ王子 鈴木 良太さん
④久慈市地域おこし協力隊 田端 涼輔さん
p05

知事メッセージ p06

[表紙の人]
── 支え合う関係・ベストパートナー
元プロボクサー
八重樫 東さん
×
元プロボクサー
佐藤 洋太さん
p07

[健やかで幸せあふれる 健幸レシピ]
三陸産ホタテとハーブのチーズリゾット
今が旬の県産ホタテを贅沢に使った一品。隠し味にハーブを使うことで後味さっぱり！
p08

[特集②]
新型コロナウイルス感染症対策
ワクチン接種が始まります！
p09

[特集③]
4広域振興局からのお知らせ p11

岩手県からのお知らせ p13

クロスわんこ
読者アンケート・プレゼント 裏表紙

[特集①] 東日本大震災津波から10年

多くの人々の日常が一瞬にして変わった2011年3月11日──。あの日から10年の月日が流れました。つらい記憶を携えながらも、県内外からの応援を受けて、未来へと向かおうとする岩手の姿を時系列で振り返ります。

2011年

3月11日 東日本大震災津波発生
13日 県内の避難者数が最多の5万4429人に（在宅含む）
6月29日 平泉の文化遺産が世界遺産に登録
8月11日 県内全ての応急仮設住宅が完成

写真提供：日本赤十字社岩手県支部（上）、葛巻町（下）/いわて震災復興アーカイブ

東日本大震災津波発生
3月11日午後2時46分、宮城県沖を震源とするマグニチュード9、最大震度7の地震が発生。沿岸部は津波で大きな被害を受けた。

2012年

3月11日 東日本大震災津波から1年、各地で追悼式などが挙行される
5月26日 東北六魂祭が盛岡で開催され、2日間で24万人を超える人出を記録
6月14日 県内で初めて災害公営住宅の建設に着手（釜石市平田地区）
12月10日 県内で初めて災害公営住宅への入居開始（大船渡市盛中央団地）

2013年

3月2日 JR大船渡線気仙沼～盛間でBRT運行開始
4月1日 久慈市を舞台としたNHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」放映開始
3日 三陸鉄道南リアス線盛～吉浜間の運行再開
5月24日 「三陸復興国立公園」創設
7月3日 「奇跡の一本松」保存事業完成式開催

応急仮設住宅
県内では約14,000戸を整備。写真は釜石市中妻町仮設住宅。

災害公営住宅
沿岸地域では、県や市町村が5,550戸を整備。写真は釜石市平田アパート。

JR大船渡線BRT運行開始
震災で寸断された鉄路を転換。便利な市民の足に。

奇跡の一本松
津波に耐えて奇跡的に残った高田松原の松が、全国からの支援を受けてモニュメントに。復興のシンボルとして未来へ託された。
写真提供：陸前高田市

2014年

- 3月23日 陸前高田市で土砂搬出用のベルトコンベア「希望のかけ橋」稼働開始
- 31日 本県の災害廃棄物処理が終了
- 4月5日 三陸鉄道南リアス線、全線で運行再開
- 6日 三陸鉄道北リアス線、全線で運行再開
- 12日 JR釜石線でSL銀河の運転開始
- 23日 大船渡市新魚市場の完成式典開催
- 8月24日 県内の復興道路全て着工

2015年

- 3月19日 県立高田高等学校新校舎完成
- 7月8日 釜石市の橋野鉄鉱山を含む「明治日本の産業革命遺産」世界遺産に登録
- 12日 県内で初めて仮設商店街が本設として移転オープン（大船渡市）
- 11月22日 造成工事がほぼ完了した田老地区で「田老まちびらき記念式」開催（宮古市）
- 12月23日 「小本津波防災センター」完成、岩泉小本駅と一体化

まちびらき後の田老地区
かさ上げや高台移転した土地で、住宅などの建設が進む。

県立高田高校新校舎完成
旧校舎は3階まで浸水。新たな学び舎で次世代の担い手育成へ。

三陸鉄道北リアス線、全線で運行再開
三陸鉄道南リアス線（盛・釜石間）、北リアス線（久慈・宮古間）が復旧。地域の足が復活。
写真提供：三陸鉄道株式会社

災害廃棄物処理
県内の一般廃棄物の14年分に相当する618万トンを処理。内陸や県外の自治体が協力。
写真提供：
宮古市/いわて震災復興アーカイブ

2016年

- 4月23日 久慈地下水族科学館「もぐらんぴあ」営業再開
- 27日 県立大槌病院再建
- 8月19日 県立山田病院再建
- 10月1日 第71回国民体育大会「希望郷いわて国体本大会」開催
- 22日 第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」開催

2017年

- 3月19日 大船渡港湾口防波堤復旧
- 4月27日 商業・図書館複合施設「アバッセたかた」オープン
- 29日 商業施設「キャッセン大船渡」オープン
- 12月8日 釜石市民ホール「TETTO」開館記念式典開催

2018年

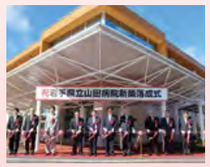
- 2月16日 県立高田病院再建
- 3月30日 釜石港湾口防波堤復旧
- 6月10日 大槌町文化交流センター「おしゃっち」開館

おしゃっち開館
町中心部に誕生した、図書館や交流施設を備えた複合施設。地域の憩いの場に。
写真提供：おしゃっち

アバッセたかたオープン
沿岸地域に新しい商業施設が完成。にぎわいの拠点に。

希望郷いわて国体
冬季大会、本大会、希望郷いわて大会と合わせて、全国から82万7千人の選手・監督、大会関係者、観客が参加。県内各地で交流も。

県立山田病院再建
被災した県立病院の再建進む。



もぐらんぴあ再開
被災後に移転し「もぐらんぴあ まちなか水族館」として営業していたが、元の場所に復旧。
写真提供：もぐらんぴあ

2018年

- 8月19日 釜石鵜住居復興スタジアム完成、オープニングイベント開催
- 12月14日 県内の被災公立学校86校の学校施設が全て再建

2019年

- 3月9日 東北横断自動車道釜石秋田線の全線開通
- 23日 三陸鉄道「リアス線」全面開通
- 6月1日 「三陸防災復興プロジェクト2019」開幕
- 9月22日 東日本大震災津波伝承館開館
- 25日 ラグビーワールドカップ2019™日本大会が釜石鵜住居復興スタジアムで開催
- 11月5日 県沿岸部の災害公営住宅全5550戸の整備完了

2020年

- 3月22日 オリンピック競技大会の聖火を「復興の火」として展示（～23日）
- 5月18日 三陸鉄道リアス線「新田老駅」開業
- 12月7日 県内の災害公営住宅全5833戸の整備完了

復興の火展示
東京2020オリンピック競技大会の聖火リレーに先立ち、聖火が「復興の火」として岩手に到着。

ラグビーワールドカップ2019™開催
旧鵜住居小学校・旧釜石東中学校跡地に整備されたスタジアムで、約14,000人がフィジー対ウルグアイ戦に熱狂。

東日本大震災津波伝承館開館
高田松原津波復興祈念公園内に整備。震災津波の事実と教訓を後世に伝承し、復興の姿を国内外に発信。

全被災公立学校再建
気仙小学校（陸前高田市、写真）の完成で、全ての学び舎が再生。

全国・海外からの応援

海外からの支援

米軍と自衛隊による「トモダチ作戦」をはじめ、米国、英国、中国などの救援隊が活動。**多くの国々から支援物資**が届けられたほか、台湾をはじめとする世界各国・地域からの義援金や寄付金が寄せられ、**三陸鉄道の復旧や被災地の施設整備**に役立てられた。

被災自治体への職員派遣

全国の自治体から4,300人を超える職員が**県や市町村に派遣**され、防潮堤などの復旧工事、まちづくり、住民対応などを行った。

自衛隊による活動

陸・海・空の自衛隊10万7千人が、被災者の救出、行方不明者の捜索、がれき撤去、支援物資の輸送、給水・給食などに当たった。

警察官特別出向

1都15県の警察官延べ226人が本県に特別出向。応急仮設住宅の巡回、パトロール活動などで**被災地の治安**を守った。

医療チーム派遣

29都道府県128チームのDMAT（災害派遣医療チーム）が、発災後から**トリアージや応急処置、病院支援**を展開。**延べ4,463人の県外医師による医療支援**も行われた。

消防による活動

全国の**緊急消防援助隊延べ2,279隊7,633人が救助活動などを実施。**被災した地元の消防団員や近隣市町村の消防団員も、被災住民の救助や避難所の運営支援などに奔走。

未来へつなげ！ 復興のバトン 特別編

東日本大震災津波の記憶と
教訓を次世代へ。
復興と共に進む人たちがいます。

NPO法人三陸ボランティアダイバーズ
佐藤 寛志 さん（大船渡市）

ダイビングで人をつなぎ海を守り育て、耕す

ダイバーの佐藤寛志さんは震災後、たった一人で海に潜り、瓦礫の撤去を始めました。その活動は、全国のダイバーや、地元の漁師たちの共感を呼び、ボランティアの輪は七千人にも広がりました。10年が経ち、海の中では、魚や藻などが命を繋いでいます。目下の課題は、ウニが藻を食べ尽くしてしまう「磯焼け」。海の環境活動家である佐藤さんは、漁協などとともに藻場再生に日々奮闘しています。

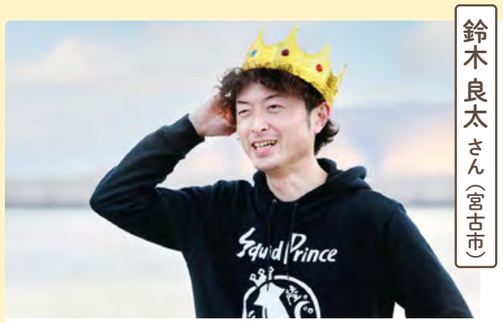
大船渡市越喜来「みちのくダイビングリアス」のダイビングインストラクター。愛称はクマさん。「三陸は世界に誇れる海」と語る。

藤勇醸造株式会社
小山（おやま） 明日奈 さん（釜石市）

復興支援に感謝思いをデザインに

釜石の老舗・藤勇醸造で商品開発をする小山明日奈さん。復興支援への感謝の気持ちを込め「十割糀みそ」のパッケージをデザインしました。デザインには、被災した印刷所から復興ボランティアによって発見された「藤勇」の活字が使われています。復興ボランティアとは、その後も交流を続け「甘糀」や「甘糀ロッション」といった商品を次々と生み出し、釜石に新しい風を起こしています。

藤勇醸造は釜石の味噌・醤油の醸造元。米糀に五穀をブレンドした甘酒「五穀甘糀」は令和元年農林水産大臣賞を受賞。

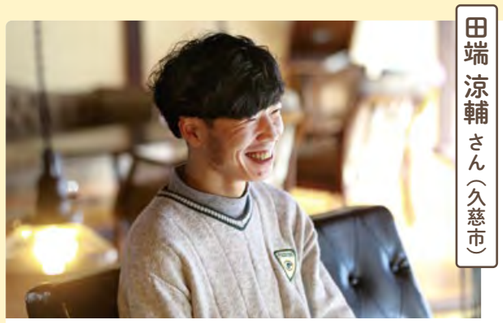


三陸王国宮古イカ王子
鈴木 良太 さん（宮古市）

宮古の未来のためイカ王子は今日も行く

震災後、肩を落としている人たちを見て立ち上がった鈴木良太さん。「イカ王子」の名で、宮古の水産業をPRし、牽引して来ました。自社商品をはじめ、他社の水産加工品も情報発信。今では、地元の農業についても発信しています。それも全て宮古の未来のため。「地元を誇れるような、おいしい商品を一つでも増やしたい」と話す鈴木さん。宮古のエースはこれからも走り続けます。

共和水産株式会社の専務取締役。「王子のぜいたく至福のタラフライ」は全国でも人気。地元の魅力を知ってほしいと、小中学生の工場見学を受け入れている。



久慈市地域おこし協力隊
田端 涼輔 さん（久慈市）

「岩手で仕事をする」ビジョンを具現化して

震災後、被災地を訪れた田端涼輔さんは、「いつか岩手県に来て仕事をする」ことを思い描いていました。一昨年から古民家をセルフリノベーションし、2019年7月、久慈市山根地区にカフェをオープン。「コーヒーは豆や入れ方で味が変わる。人間と同じで個性があって魅力的」と話す田端さん。田端さんのコーヒーは、市内外の多くの人を惹きつけています。

三重県津市出身。2018年、久慈市地域おこし協力隊に。山根地区に「YAMANECO COFFEE LAB」をオープン。現在はキッチンカーでコーヒーを提供することも。

「東日本大震災津波を語り継ぐ日」について

2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、本県では甚大な被害を受け、多くの大切な人を失いました。二度と同じ悲劇を繰り返さないために、震災を体験していない世代やこれから生まれてくる子供たちにもあの日の悲しみと教訓を伝えていかなければなりません。
「3月11日を岩手県民の日『大切な人を想う日』にすることについての請願」が県議会で採択されたことを受けて、県は2021年2月に「東日本大震災津波を語り継ぐ日条例」を制定しました。

震災により亡くなった多くの尊い命に追悼の意を表し、震災の教訓を伝承するとともに、これまでの復興に向けた歩みの中で得られた多くの絆を大切にし、一人一人の大切な人に想いを寄せ、ふるさと岩手を築いていくことを誓う日として、「東日本大震災津波を語り継ぐ日」を定めました。

ポイント

- ☑ **3月11日を東日本大震災津波を語り継ぐ日とします。**
- ☑ 県は、市町村その他の団体と連携して条例の趣旨の普及や趣旨に沿った取り組みを行うとともに、市町村などが行う取り組みへの協力や県民の自発的な取り組みの促進に勤めます。

震災から10年を迎えて

平成23年に発生した東日本大震災津波から、3月11日で10年を迎えます。改めて、犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の誠を捧げます。

県では、発災からこれまで、国内外から頂いた多くの御支援を力に、県民一丸となって復興に取り組み、防潮堤の整備や復興道路の開通などの安全の確保、災害公営住宅の完成などの暮らしの再建を進めてきました。

被災された方々の心のケアやコミュニティ形成、なりわいの再生など、中長期的に取り組むべき課題も多く残されています。「東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を基本目標に、今後も復興を県の最重要課題と位置づけ、「誰一人取り残さない」という理念を持ち、三陸のより良い復興（ビルド・バック・ベター）の実現に、引き続き全力で取り組みます。

発災から10年を迎えるに当たり、県は、3月11日を「東日本大震災津波を語り継ぐ日」とする条例を制定しました。二度と同じ悲劇を繰り返さないため、次の世代へと震災の教訓を語り継ぎ、これまで得られた多くの絆に感謝し、一人一人の大切な人に思いを寄せながら、力を合わせて未来に向けて、ふるさと岩手を築いていきましょう。

岩手県知事
達増拓也